

大人が絵本を 第6回 絵を読む



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*
小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリアキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

○絵を読む天才は子どもたち！

「くらはげは白いから暗いところで目印になるんだよ。でも電気を点けた方がもっと明るくてキラキラだから電気を点けているの。お部屋の上のくらはげは電気なの。」

4歳のIちゃんが大好きな『ちいさなちいさな ふしぎなおみせ』（教育画劇）を読みあっているとき、深くて暗い海の底のシーンで、Iちゃんが教えてくれました。確かに、半透明のくらはげはそれだけで灯りのようです。



『ちいさなちいさな
ふしぎなおみせ』
さかい ちえ 作
(教育画劇)

子どもたちは絵本の絵を読む天才です。まだ文字を読めない幼児が物語を読むときのたよりは、「絵」だけです。文字による言葉の認識ができない幼児ほど、絵から物語を読みとる能力に優れていることは、松居直氏らによって一般論となりました。その絵に大人の言葉が添えられると、平面な絵は子どものなかで立体化され動き出すのです。絵本を読むとき子どもたちは大人の言葉を聴きながら、同時に絵を一心に見て大人が気付くような発見をしたり、大人では思いもしないことを感じたりしているようです。子どもたちと読みあいをしていると、楽しい発見や深い読みとり方を教えられて、絵本の読み方を学ばせてもらえます。絵本専科の司書の先生は子どもたちです。

○受動的な「映像」、能動的な「絵本」

テレビやDVDの画像は、最初から立体的に動き回っているの、見る者は与えられたペースで動き展開していく映像をただ受ければ良いだけです。子どもの脳には受

動的な働きになります。一方、絵本は絵を見ると同時に大人の語る言葉が合わさることで、子どもたちが備えている能力、すなわち想像力が発揮され平面の絵を立体的に動かすことができるのです。これは映像メディアより「絵本」が能動的メディアであり、この体験を繰り返すことで子どもたちの想像力は育てられるとともに思考の豊かさが広がっていくのです。この想像する力は、子ども時代に絵本を楽しむ、将来自分で本を読んだり、物事を考えたりするために必要な力で、読書の根幹である生きる力になると私は考えています。

絵本が大好きな2歳のKくんは、1歳を過ぎた頃から参加している2～4歳向けおはなし会も、お姉ちゃんと一緒に4～6歳向けおはなし会でも、一番前に座って30分間、絵本に聴き入り、大好きな車が出てくると指を差して「きゅーきゅーしゃ！」と声に出します。ひとり読みだって上手です。お姉ちゃんとお母様が読みあいをしている間、一人で大人しく絵本を読みます。まるで文字を読んでいるかと思うくらいのペースで1頁から順に頁をめくり、顔（目）を頁の隅々まで這わせます。見開き頁の左上から右上へ、右下、左下とゆっくりじっくり絵を読んでいます。そして時々、「みてーみてー」と自分が発見したことをお母様へ教えてあげるのです。文字による言葉がなくても、Kくんは絵から彼独自の言葉をつくり、物語を創り、そして平面の車が動いて見えてくるのです。まさしく、絵が語る言葉によってお話を読みとっているのです。自分のペースで「絵を読み」、「言葉にして」、「画面を展開させ」、そして「他者に伝える」という繰り返しが、能動的な絵本読みの姿なのです。

読書の発達にも個人差があり、1歳児の平均的な絵本との関わりは、じっくり「読む」よりも、絵本の頁をめくることに関心を示したり、じっと座って聴き続けることがで

手にするときは！ コドモ、字を読むオトナ

企画 濱野 良彦
構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
(福岡市)

きず、途中でウロウロしたりする幼児が多いようです。しかし、新生児の頃から日常に絵本のある暮らしを送るだけで、適正な読書の発達過程を進むのは事実で、この発達を適切に支援してあげるのは大人の役割です。3か月齢より毎日親子で絵本を読みあつてきた乳児は、7か月くらいで、『おつきさまこんばんは』（福音館書店）や『しょうぼうじどうしゃうー』（くもん出版）など、ショートショートストーリーの絵本の絵をじっと観察できるようになります。私たち司書のアドバイスを実行される親子をみると、その乳幼児の読書の発達はのびのびと楽しそうです。

○2歳女の子の絵本体験記録

Mちゃんは、2歳のお誕生日プレゼントにもらった『おままごと』（こぐま社）がきっかけで絵本への関心が高まり、それまでと打って変わって「読んで」とせがむようになりました。『おままごと』はMちゃんの興味や感性に合致したようで、お話の世界に入り込み、とても楽しい体験ができたのでしょう。お話の世界で自由に遊ぶ醍醐味を一度覚えたら、もう絵本はその子の楽しい想像遊びのツール以上の物となっています。



『おままごと』
すなやま えみこ 作
(こぐま社)

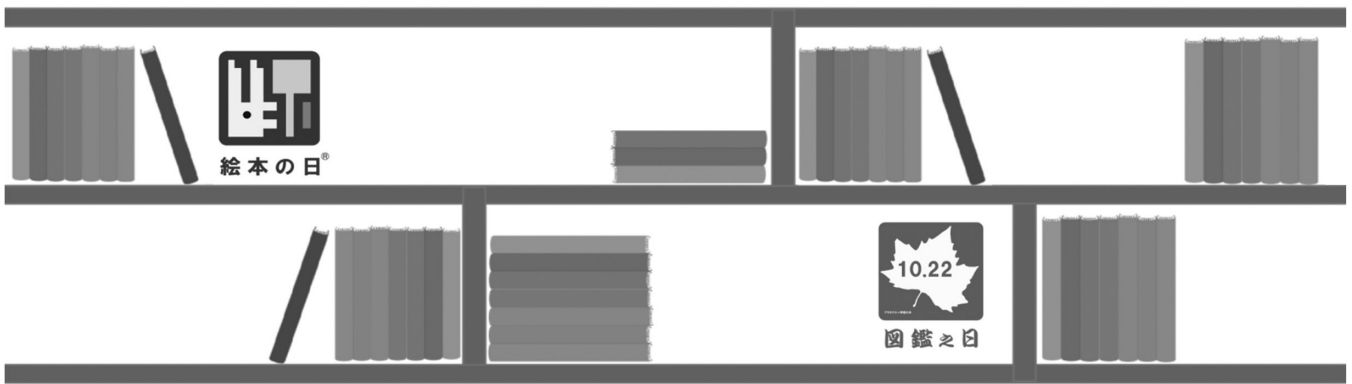
それから半年くらい経った頃でしょうか、Mちゃんが一人で絵本を読んでいるときのことで。突然、「お母さんと一緒にお出かけしました。するとお友だちがいました。」と大きな声で音読し始めたのです。もちろん、絵本の文字

とは違います。でも、絵から読みとったお話を堂々と読んでいるのです。登場人物が歩き出し、会話を楽しんでいる映像がMちゃんの頭の中で繰り広げられているのでしょう。これは、ストーリー絵本の楽しみを覚えた1歳後半から2歳くらいの、文字は読めないけれどお話が大好きな幼児によく見られるスタイルです。絵本の文字は読めないけれど、絵から創作した「お話」を口にしながら一人で絵本を読み進めていくのです。

東京子ども図書館の松岡享子氏は、「文字をもたない幼児は絵に頼るしかない。実物とそれを表わす記号（文字）を結びつけることを学ぶとき、その一つ前の段階として、必ず絵でものを考える。具体的なもの（絵）から出発しないと、抽象的なもの（文字）の世界へは到達できない。幼児の時代は、この過程の出発点、全面的に絵でものを考える時代²⁾」と言います。幼児は文字をもたない代わりに絵を読む力が備わっているのです。そこに、頁をめくる動作が加わることで絵と絵による展開が成り立ち、言葉の補助を受けて絵に動きを持たせることができるのです。大人は、子どもたちが生まれつき備えた力を引き出すお手伝いをしているのです。その力が隠されたままにならないように「絵本」という最高のツールを使って支援し導くこともまた、大人の大切な役割なのです。

○大人の皆さん、絵本の絵を読んでみましょうよ！

すぐれた絵本画家は、絵で語る工夫をし、絵は隅々まで言葉に置き換えられ、挿絵からも物語が読みとれる構成をしています³⁾。絵本の物語世界を自由に行き来できる子どもは、絵を読むことで物語を読み、想像の世界を楽しんでいるのです。ところが、同じ絵本を読んでいる大人は子どもと違って、絵本の文字を読むことを優先し絵を読むことを置き去りにしていることが多いようです。それでは絵本



を読んでいることにならないと分かっているのですが…。

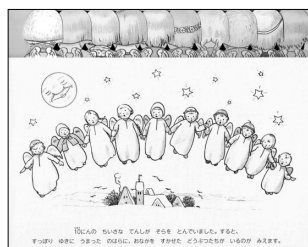
こんなことがありました。当法人では、親子ライブラリーでのおはなし会と別に、小児歯科医院待合室でもおはなし会を実施しています。待合室では司書と受付保育士がペアになり、1～3歳児向けと3～5歳児向けを行い、保育士も1冊ずつ絵本を読みます。保育士と『クリスマスのでんし』（徳間書店）を読む練習をしていたときのこと、文字が小さいため絵本を見せる持ち方をすると、体と反対側にあるページの文字が見えにくくなり、読んでいた言葉が止まったのです。それはこのような場面です。



『クリスマスのでんし』
エルゼ・ヴェンツ・ヴィエ
ートル 作・絵
さいとう ひさこ訳
(徳間書店)

【第1場面】

序頁：画面に10人の天使があらわれます（画像p.1）
「すっぱり ゆきに うまった のはらに、おなかを すかせた どうぶつたち があるのが みえます」
次の結末頁：4種の動物に食べ物をあげる天使の絵（画像p.2）
「1ばんめの てんしが まいおりて、どうぶつたちに たべるものを やりました」



『クリスマスのでんし』
p.1（序頁）

保育士は、体と反対側の頁で見えにくくなった文章のうち、「どうぶつ」の単語が出ずに言葉が止まりました。動物たちが天使に食べ物をもらっている場面が描かれているのに、言葉にならなかったのです。



『クリスマスのでんし』
p.2（結末頁）

【第2場面】

序頁：画面は、家の中にいるおばあさん。
「まちはずれの そまつな家には、かなしそうな おばあさんがいます。『どうしよう。からだが弱って、まごにクリスマスツリーを用意してあげられないよ』」
次の結末頁：ツリーを運ぶ天使の絵。
「2ばんめの てんしが ツリーを よういして、おばあさんのところへはこびました」

見えにくくなった文章のうち、「おばあさん」の単語が読みとれずに言葉が止まりました。

これらはいずれも「絵本」をきちんと読んでいれば、第1場面の絵より「どうぶつ」に食べ物をあげている画が読みとれて、このストーリーの肝心な「どうぶつ」の言葉は出てくるし、第2場面でも「おばあさん」の単語を落とすことはありません。保育士は、「絵本の『文字を読む』ことに一所懸命で、『絵を読む』ことはしていなかった」と言います。絵本の理解ができていなかったから起きた失敗です。このような読み方は、読み聞かせ活動をしている大人にもみられるのではないのでしょうか。

E-mail

安藤：bibliokids.baby1@gmail.com
 濱野：hamano@genkigawaku.com
 木須：nobuokisu@gmail.com

連絡先 福岡市南区大橋3-2-1 2F
 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ
 TEL 092-557-3272 URL <http://bibuliokids.jp>

ビブリオベイビー
**Bibli
 Baby**

松居氏は『絵本のよろこび』で、「子どもに絵本を読み語るとき、読み手はその絵本の挿絵からどれほど詳細に物語を読みとっているかが重要で、その読みとりなしでは、ただ機械的に頁をめくることになり、それでは独特の語りをもった絵本の芸術を生かすことはできない¹⁾と読みあいの指南をしています。

昨今、読み聞かせボランティア団体は数多あります。また、自分の子どもが幼稚園や小学校にあがったことで始めたボランティア活動が高じて司書資格を取得し、嘱託学校司書となる人もめずらしくありません。しかし、親子間の読みあいの域を越えて、専門の立場で絵本を読む人たちが、果たしてどのくらい詳細に絵本を読みとる作業をしてから子どもたちと対峙しているのかと、疑問を感じる場面に何度も遭遇しました。絵本の理解がないままでは、「絵を読む」子どもたちと読みあっていることにはなりません。絵本を中心にして、大人と子どもが場所を共にしているのですが、気持ちの通い合った読みあいにはなっていないのです。

○外国の原書絵本の楽しみ方

当法人では小児歯科医院の受付保育士に対しても図書館研修を行っていますが、「子どもの目線で絵本を読む」体験として、外国の絵本を読む過程を取り入れています。日本の絵本では文字が読みとれてしまう分、純粋に「絵を読む」作業ができないので、当館に所蔵する、韓国やフランスなど13か国の原書絵本を読む体験をしています。原書では文字を読みとれませんので、絵から物語を読みとろうと全身の感覚機能を総動員させて、画面の絵を隅々まで読むことになります。それは幼児と同じ絵本の読み方で、大人が普段忘れがちで、文字に頼らない絵本の読みとり方ができるのです。幼児と同じように感覚を研ぎ澄ませると

いう行為を覚醒させ、感性を高めることにもなります。

そうはいつても、言葉と絵の相互作用による絵本は、メッセージ性が高く、絵だけで物語を読みとることは困難です。テキストの選定が肝心になります。どこの国でも幼児向け絵本は、おもしろいほど絵による物語の読みとりが容易で、正解が分からなくても十分楽しめるのです。幼児向け絵本は、文字はあってもその言語による読者(国)指定がなく、国境を越えて楽しめるものです。特に文字の読めない幼児ほど、外国絵本の読みとりにたけているのではないのでしょうか。

子どもたちと絵本を読みあい感情を共有する大人は、じっくりと絵を読んでください。絵本の絵を読みこむと、その絵本の深層世界に触れることができ、文字を読んでいたときとは違う感情がフツフツと湧きあがってくることに気付くでしょう。子どもたちと絵本を読みあうときは、心の通い合った時間を共有することを忘れないでください。

文 献

- 1) 松居直：絵本のよろこび，NHK出版，東京，2003，pp. 44-46
- 2) 松岡享子：えほんのせかい こどものせかい，日本エディタースクール出版部，東京，1987，pp. 29-34

絵 本

- 1) さかいさちえ：ちいさなちいさな ふしぎな おみせ，教育画劇，東京，2009
- 2) 林明子：おつきさまこんばんは，福音館書店，東京，1986
- 3) 山本省三作，市原淳絵：はたらくくるま しょうぼうじどうしゃウーウー，東京，くもん出版，2011
- 4) 砂山恵美子：おままごと，こぐま社，東京，2011
- 5) エルゼ・ヴェンツ・ヴィエトール作，さいとうひさこ訳：クリスマスのでんし，東京，徳間書店，2009